

★講演会を開催しました！

●「松江城下町発掘物語—白瀧の巻—」

11月25日に、スティックビル（松江市）にて講演会を開催しました。会場には80名の聴講者が来場され、最新の発掘調査成果や文献・絵図から読み解かれた松江城下町の様子などを熱心に聴講されました。当日の様子が島根県公式YouTubeチャンネル（しまねっこCH）で公開中です。



会場の様子



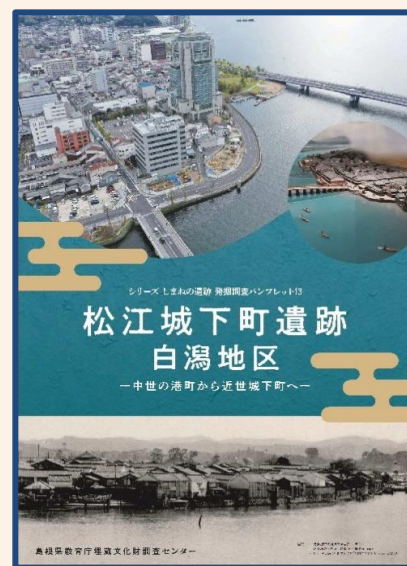
パネルディスカッションの様子

パンフレット紹介

シリーズしまねの遺跡パンフレット13
『松江城下町遺跡白瀧地区』

●最新刊が発行されました！

シリーズしまねの遺跡では、いちおしの遺跡を分かりやすく紹介しています。今回は、松江市白瀧本町を中心とする『松江城下町遺跡白瀧地区』を取り上げ、城下町ができる前の中世の様子や、発掘調査で見つかった造成の様子などについて解説しています。パンフレットは、当センターで無料配布しているほか、県内の図書館・文化財関係施設にも置いてありますので、ぜひご覧ください。



行ってみたいしまねの遺跡

越堂たたら跡(出雲市多伎町)

越堂たたら跡は、江戸時代から明治時代にかけて製鉄業で財をなした田儀櫻井家が経営したたたら場です。この場所で約150年間たたら製鉄が行われました。遺跡は田儀川の河口近くに立地し、材料である砂鉄・木炭を安定して調達でき、また生産した鉄素材を港から全国へ出荷しやすい場所でした。現地では発掘調査で見つかった製鉄炉が復元され、地下の様子や建物の構造について解説されており、田儀櫻井家の経営の様子を知ることができます。



復元された製鉄炉

問い合わせ先：出雲市文化財課 0853-21-6893

わかりやすい！島根県の埋蔵文化財情報が満載！

島根県の埋蔵文化財情報誌

web版 No.3

ドキ土器

2024年春

まいぶん



桜谷鉦跡の製鉄関連遺構
石で囲まれた盛土の上面より、製鉄関連遺構が見つかりました。

江の川流域のたたら製鉄の一端が明らかに

さくらだにたたらあと

①桜谷鉦跡(江津市松川町)

桜谷鉦跡は、江の川下流の丘陵上に立地する製鉄遺跡です。発掘調査では、江戸時代以降に建てられた高殿と呼ばれる施設跡や製鉄炉の地下構造などが見つかりました。高殿跡は、平面が隅の丸い長方形をしており、全国的にも珍しい形をしていることが分かりました。地下構造としては、製鉄炉の防湿・保温を図るために本床や小舟などの施設が備えられていました。桜谷鉦跡の調査では、江の川流域におけるたたら製鉄の一端が明らかとなり、当地域の製鉄技術の伝播や変遷などを検討するうえで重要な資料を得ることができました。



遺跡の位置

島根県の埋蔵文化財情報誌

ドキ土器

まいぶん

web版 2024年春号

編集・発行
島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
〒690-0131 松江市打出町33
TEL.0852-36-8608 FAX.0852-36-8025
E-mail.maibun@pref.shimane.lg.jp
https://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/



※遺跡位置図は国土地理院発行1/25,000地形図を使用

令和5年度 発掘調査ガイド



●発掘調査中の遺跡には、深い穴や急傾斜地など危険な場所があります。事故などのおそれがありますので、くれぐれも無断で立ち入ることがないようにお願いします。

■掲載した遺跡についての問い合わせ：島根県埋蔵文化財調査センター TEL 0852-36-8608

約3万年前の旧石器を発見

だんばらさん

②団原Ⅲ遺跡(松江市大庭町)

団原Ⅲ遺跡は、松江市南部の茶臼山西側に広がる標高20mの台地上に位置します。昨年度の1・2区の調査に続いて、今年度は西隣の3区の調査を実施しました。調査地付近では黒ボク土が堆積しており、黒ボク土の上方や、その上層の耕作土から縄文土器、古代瓦、近世後半以降の陶磁器や鍛冶滓が出土しました。また、旧石器時代の堆積層を掘削したところ黒曜石製の台形様石器が1点出土しました。この石器の刃縁部には刃部に直交する方向の使用痕が残っており、槍先として使用されていたと考えられます。黒曜石は隠岐の島産ですが、石器の形状や作り方は、西日本ではあまりみられない東日本で比較的多くみられる特徴を持っています。遺跡周辺の台地上では、他に7つの遺跡で旧石器が出土しており、後期旧石器時代後半期(約3万~1万6千年前頃)には旧石器人が活動しやすい場所だったことが想像されます。



黒曜石製の台形様石器



遺跡の位置

平安時代から鎌倉時代の生活跡を確認

あさくみやだに

③朝酌矢田Ⅱ遺跡(松江市朝酌町)

朝酌矢田Ⅱ遺跡は大橋川の左岸、松江市朝酌町に所在します。今年度は、矢田の渡しの東側にある丘陵上の平坦面で発掘調査を実施しました。ここでは、平安時代末から鎌倉時代初頭(11世紀~12世紀)の遺構や土器が見つかり、この時期に集落が営まれていたと考えられます。

また、中世の遺構の下層には、古墳時代後期から奈良時代の土器を含む層と、弥生時代終末期から古墳時代前期初頭頃の磨滅した土器片を含む礫層がありました。こうしたことから、この丘陵上では弥生時代終末期から断続的に人々が暮らしていたことがわかりました。

平安時代末から鎌倉時代初頭の集落跡については、朝酌地区では初めての確認例であり、当時のこの地域の様子を知る手掛かりになります。



中世の集落



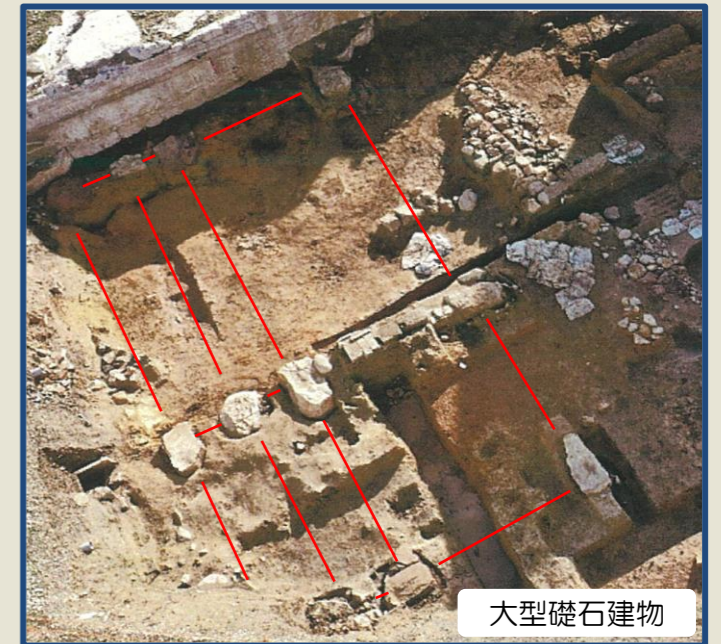
遺跡の位置

町の発展を示す遺構・遺物を確認

まつえ じょうかまち いせき しらかた ちく

④松江城下町遺跡白潟地区(松江市魚町・白潟本町)

松江城下町遺跡白潟地区は、宍道湖から東に流れる大橋川の南岸に位置しています。調査区の北西には松江大橋が、西には松江大橋から続く道路が南に伸びています。発掘調査では江戸時代前半から明治時代の遺構や遺物が確認されました。その中でも特に注目されるのは、17世紀後半の大型礎石建物です。南北5m、東西9.5m以上ある東西に長い建物で、北側の道路に面していたと考えられます。この建物には長さ1m以上もある松江城下町遺跡では最大級の礎石が使われていました。大型礎石は公的な施設や寺院で用いられますが、文献資料ではこの場所にそのような建物があったという記録はありません。江戸時代には調査区の北に船着場も存在するなど、松江城下町における流通の中心地であることから、3階建てなどの立派な商家の建物が存在したのではないかと考えられます。



大型礎石建物



調査区遠景(北上空から)



遺跡の位置

整地土からわかった古代の土木工事

しせき いずも こくふ あと

⑤史跡出雲国府跡(松江市大草町)

出雲国府は奈良時代から平安時代にかけて、出雲国の政治の中心地でした。今年度は、政庁正殿の東側を発掘調査し、整地土や基盤層に関する情報を得ることができました。整地土は地山を削って平らに整えた後、黄色い土と黒い土を使い分けて丁寧に造成されていました。出土遺物から造成がおこなわれたのは8世紀後半~9世紀前半とみられ、政庁域の主要な建物が掘立柱から礎石へと建て替えられた時期に当たります。つまり、今回確認した整地土は国府の大規模リニューアルに伴う一連の土木工事であり、地盤改良にも大きな労力をかけたことがわかります。



遺跡の位置



厚く堆積した古代の整地土